

## 本殿、権殿

上賀茂神社の本社の区域には、本殿（主な本殿）と権殿（一時的な本殿）という、2 つの同じ形の御殿が並んで建っています。右側にある本殿には、賀茂別雷命大神が祀られており、大半の儀式が行われています。特に重要な儀式では、本殿の扉が開かれ、高位の神職が中に入って、そこに祀られている神様のために、供物を祭壇へ置きます。左側の権殿は主に、本殿の修理中、賀茂別雷命大神を一時的に祀るために使われています。

## 流造という建築様式

本殿と権殿は、流造と呼ばれる古典的な神社の建築様式で建てられています。流造は、後ろよりも正面側が長く伸びた非対称の切妻屋根が特徴です。神社の約 6 割がこの建築様式で建てられており、また上賀茂神社の建築は、平安時代（794～1185）ならでの、より古い流造の形の良い例です。上賀茂神社に最初の流造の建物が建てられたのがいつかは不明ですが、現在の本殿と権殿は 1863 年に建てられました。どちらも国宝に指定されています。

## 式年遷宮という儀式的な再建

上賀茂神社は 21 年ごとに式年遷宮と呼ばれる儀式的な再建・修理の期間に入ります。歴史的に、有力な神社は一定の間隔ですべての神聖な建造物を再建して「純粋」で常に新しいものに保ちましたが、費用が高額なためほとんどの神社はその慣習を中断しました。現代では、上賀茂神社の式年遷宮では、神社の建物を完全に再建するのではなく、修理やメンテナンスを行っています。この式年遷宮の間に本殿の修理やメンテナンスが行われる場合、賀茂別雷命大神は一時的に権殿へ移されます。

## 神聖な守護者

本殿と権殿は、左は狛犬という伝説上の獣、右は唐獅子という獅子が対になった像と絵画で守られています。上賀茂神社が古くから取り入れてきた陰陽思想を反映して、狛犬は月と陰のエネルギーを象徴する銀色で、唐獅子は太陽と陽のエネルギーを象徴する金色です。現代では、神社にある 2 体一組の守護者の像は狛犬が 2 体であるのが一般的ですが、上賀茂神社の狛犬と唐獅子の組み合わせは、より古い伝統を示しています。2 つの御殿の壁に描かれた狛犬の絵は、江戸時代（1603～1867）に傑出していた狩野派の絵師によって描かれたものです。